

平成 28 年 2 月 29 日

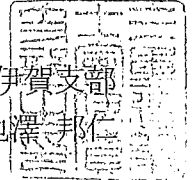
伊賀市の賑わい創出検討協議会

会長 田山 雅敏 様

要 望 書

一般社団法人三重県建築士会伊賀支部

支部長 池澤 邦仁



私たちは現伊賀市庁舎の取り壊しの判断は慎重になされることを要望します。

パリのセーヌ河のほとりに建つオルセー美術館は、1900年に開業した鉄道駅が約40年間営業した後に50年近くの間は廃墟同然の状態でしたが、改修されて1986年に美術館へと生まれ変わりました。現在ではパリの新しい見どころとして世界中の来館者でにぎわう評判の良い施設となった訳です。

わが国では新国立競技場問題は記憶に新しい所です。その反省点の一つに、旧国立競技場の利活用の検討が十分に深められなかった上に新国立競技場計画の検討も不十分であったことがあります。

現在、現伊賀市庁舎を保存して利活用するか庁舎を取り壊して新築するかのどちらかで別用途の賑わい創生施設をつくることが検討されている次第ですが、1964年に坂倉準三の設計で竣工した現伊賀市庁舎は文化的価値の高い貴重な建築です。

熟議を尽くし明るい未来が確信できる計画を示して後世に禍根を残すことのないよう、どうか取り壊しの判断は慎重になされることを要望します。

私は署名をもって本要望の趣旨に賛同します。

| 氏 名 | 住 所 |
|-----|-----|
|-----|-----|

全 1 4 名 の 署 名

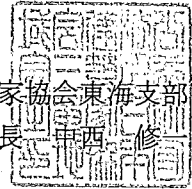
(個人情報保護のためマスキングしています)

2016年 3月 2日

伊賀市の賑わい創出検討協議会

会長 田山 雅敏 様

公益社団法人 日本建築家協会東海支部
三重地域会 会長 中西 修



伊賀市庁舎(南庁舎)の保存と活用に関する要望書

拝啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴職におかれましては、日頃より建築文化の継承・発展に理解を示されていることに深く敬意を表します。また当協会の活動に格別のご理解を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、貴市におかれましては、現在の市庁舎の位置について、伊賀市の賑わい創出のためにどうあるべきか、さまざまな検討をされている中、現市庁舎の存否についても言及されているとも聞き及んでいます。ご存知のとおり伊賀市庁舎(南庁舎)を含む一連のモダニズム建築は、フランスの世界的建築家ル・コルビュジェに師事した坂倉準三が、当時の上野市長豊岡益人の要請によって設計したものです。残念ながら当時の建築の内、幾つかは取り壊されましたが、本庁舎建築と、上野西小学校体育館、上野公園レストハウスは50年の長きに亘り保存・維持されています。

伊賀市庁舎(南庁舎)の特徴は、緩やかに傾斜する敷地に対して大きな吹き抜けやスキップフロア、ドライエリアなどによって見事に建築的解決を計っていることです。またピロティや屋上庭園などモダニズムの建築手法を取り入れることによって明るく開放的な空間を造り出しています。外部にあってはコンクリート打ち放しの直線的な表現の中に、印象的な深い陰影を造り出し、なにより城山の景観との調和を強く意識した優れたデザインのものであります。

当協会は本建築等に対して2004年にJIA25年賞東海支部奨励賞を授与させていただきました。また昨年ドコモモジャパンは「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の一つに選定しています。このことによって、本建築の歴史的価値は更に高く評価されることになりました。

上野公園周辺には江戸時代以降のいろんな時代の歴史的な建築物が残されていますが、このモダニズム建築は昭和の時代を語るものであり、歴史の厚みをより深める重要な存在であり、その波及効果は計り知れないものがあると考えられます。

以上のことから伊賀市の歴史的資産として本伊賀市庁舎(南庁舎)を保存し活用されるよう要望いたします。

敬具

平成28年 3 月 2 日

伊賀市の賑わい創出検討協議会

会長 田山 雅敏 様

伊賀市庁舎を保存修理し活用することを要望します

みえヘリテージの会
代表世話人 岩見 勝由

私達、みえヘリテージの会は「歴史的建造物の保全・活用に係る専門家（以下「ヘリテージマネージャー」と称する）で構成する地域ネットワークが県内において連携し、ヘリテージマネージャーの情報交流、研鑽、及び文化的に価値ある建造物の掘り起し等を行うことにより、歴史的建造物の保全・活用の促進に資する」ことを目的として活動する団体です。

今般、伊賀市庁舎をめぐる、本建物を取り壊し新たな建物を建設するか、保存修理し新たな目的のため活用するのかの議論がされていますが、私達は、本建物が歴史的建造物であることを認め、将来に向けて保存修理し活用することを要望します。

理由

- 一、本建築は坂倉準三の設計による日本建築史上モダニズム建築の一つに数えられる名建築であり、三重県下で唯一ドコモモジャパンに選定され、国登録有形文化財の候補になっている。
- 一、伊賀市は室町、桃山、江戸、明治、大正、昭和と続く歴史的な建築文化を誇るまちであり、本建築は戦後昭和の代表建築として将来に受け継ぐべきものである。
- 一、現建物の耐震性や雨漏りなどの不具合は、今日の建築技術により十分修復することが可能であり、「直して使う」現代の思潮に合っている。

注：ドコモモ docomomo 「モダンムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織」

署名

| 氏名 | 住所 |
|----|----|
| | |


全67名の署名

(個人情報保護のためマスキングしています)

平成28年3月2日

伊賀市の賑わい創出検討協議会
会長 田山 雅敏 様

要望書

伊賀の建築文化を考
代表 滝井 

私達は現伊賀市庁舎の保存活用を要望します。

現伊賀市庁舎は、坂倉準三が設計した日本を代表するモダニズム建築です。

伊賀市庁舎の内北庁舎と中央公民館がすでに解体された今、残された現市庁舎の持つ価値は比類なきものとなり、その存在は広く県内外でも注目されるどころです。

伊賀が育んだ歴史文化の中で、本建築の意義は大きく次の世代に伝えるべき大切なものであり、ここに保存し活用することを要望します。

私は署名をもって本要望の趣旨に賛同します。

| 氏名 | 住所 |
|----|----|
|----|----|

全93名の署名

(個人情報保護のためマスキングしています)

伊賀市の賑わい創出検討協議会

会長 田山 雅敏 様

現伊賀市庁舎南庁舎の保存活用を求める要望書

長田の近代建築を再発見する会 代表 松原 永季

一般社団法人 宝塚まち遊び委員会 理事長 三原伸也

大阪市渡邊邸保存会 代表 山本憲作

鴨沂高校の校舎を考える会 代表 谷口菜穂子

NPO法人 J-heritage 代表 前畑洋平

精華小校舎愛好会 代表 分田美子

(順不同)

貴市において、現伊賀市庁舎の土地活用を巡って、現在様々に議論をされていることを聞き及んでいます。

ご高承のとおり、伊賀市上野公園の麓の現伊賀市庁舎南庁舎は、上野西小学校体育館や既に解体された北庁舎、中央公民館と共に、50年の長きに亘り城山の緑を背景に一体となって伊賀の優れた都市景観を形成してきました。設計者の坂倉準三はフランスの世界的建築家ル・コルビュジェの下で建築を学び、日本においてモダニズム建築の旗手として広く活躍し多くの作品を生み出しました。近年それらの建築の歴史的価値が国内外でも認められて、東京上野の国立西洋美術館は世界遺産候補に挙げられ、鎌倉の神奈川県立近代美術館は保存修理をして活用されることが決まりました。国立西洋美術館はル・コルビュジェ設計で坂倉準三たちの努力で1959年に完成し、神奈川県立近代美術館は坂倉準三自身の設計で1951年に建設されたもので、いずれも築後50年以上経過しています。それらの坂倉作品は文化庁国立近現代建築資料館の第一回の企画展で取上げられ、伊賀市庁舎の図面や模型、家具なども展示されました。そして昨年、現伊賀市庁舎南庁舎は近代建築の調査や保存のために活動する「ドコモモ」の日本組織から「残すべき建物」に選ばれました。

私たちは、この優れた建築資産を保存改修して次の世代に受け継ぐことは伊賀の文化的誇りになるに違いないと考えています。

平成28年 3月2日

連絡先:

兵庫、大阪、京都、奈良、和歌山、三重 関西の建築保存活用ネットワーク

関西建築保存活用サミット 事務局

分田美子

info@kanken-summit.net

携帯:090-9253-5957

私たちは、現伊賀市庁舎南庁舎の保存活用を求める要望書の趣旨に賛同し、

伊賀市長 岡本栄 様

伊賀市議会議長 中岡久徳 様

伊賀市の賑わい創出検討協議会会長 田山雅敏様 あてに署名をもって本要望書を提出することに同意します。

| 氏名 | 住所 |
|----|----|
|----|----|

全26名の署名

(個人情報保護のためマスキングしています)

